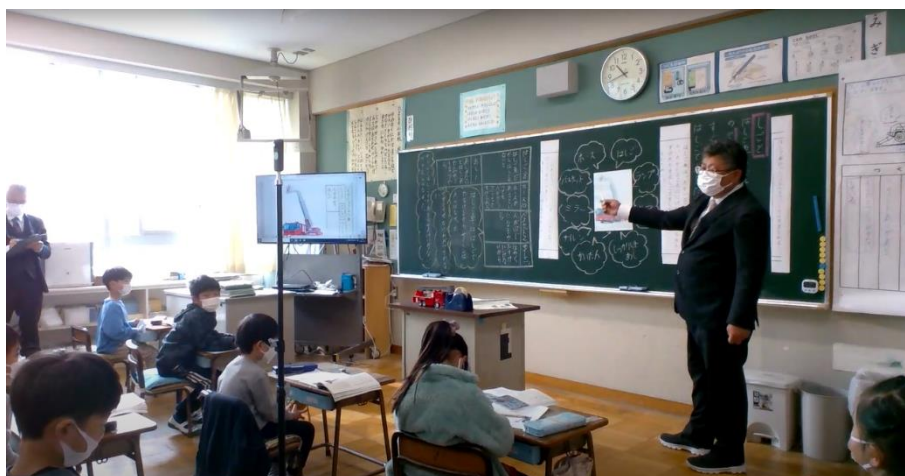


Ⅱ 研究実践 1 研究授業



低学年ブロック研究授業の様子（三枝陽 教諭）



中学年ブロック研究授業の様子（内藤千草 教諭）



第1学年 国語科学習実践

玉諸小学校 三枝 陽

1 単元名 じどう車くらべ

2 単元について

(1) 学習指導要領における位置づけ

本単元で扱う内容は、学習指導要領で以下のように位置づけられている。

第1学年

次のような知識及び技能を身に付けること。

知識及び技能 (2) ア

共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

思考・判断・表現力等

C 読むこと (1) ア

時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の全体をとらえること。

C 読むこと (1) ウ

文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えを持つこと。

主体的に学習に取り組む態度

進んで文章を読み, 説明における順序の重要性を知ること, 自分が説明するときに生かしたいことを見つけようとしている。

(2) 単元に関わる児童の実態

本クラスは, 男子16名, 女子9名のクラスである。国語では, 「くちばし」「うみのかくれんぼ」といった説明文を学習し, 「問い→答え→答え→答え」といった形式があることを学習することができた。児童は, この形式を学習する中で, 「問い→答え」といったクイズ活動をしたり, 「うみのかくれんぼ」のなかでは同じ形式の中で文章を書いたりすることができた。また, 自分の意見を書くことを増やし, 意見を書いた後には, 理由を考えて書くように指導してきたので, 少しずつ本文と関わり合いながら理由を書くことができる児童も増えてきた。

本単元は, 「問い→答え→答え」という形式で表現され, その中に「しごと」と「つくり」の関係づけ, 事柄の順序を捉えることが重要になってくる。児童にとって自動車は身近なものであり, 興味関心を持ちやすいものである。仕事とつくりの関連性も, より主体的に学習することができる。考える。

(3) 本単元で育てたい資質や能力

本単元は, 事柄の順序を捉え, 自動車の仕事とその自動車が働くためのつくりを関連付けて考えることができる教材である。これは「この自動車の仕事→そのために→仕事のためのつくり」という事柄で順序よく並んでいる。その中で, 「そのために」という言葉を介して, 仕事とつくりを関連付けて書かれている。そのことを理解し, 内容を捉える中で論理的思考力を働かせ, 深い学びにつながっていくように指導していく。

(4) 論理的思考力をつけるための手立て

1・本単元における論理的思考力の捉え方

本校における論理的思考力とは, 自分の主張に対し適切な根拠をもち, 筋道立てて考える力である。本単元では「しごと」「そのために」「つくり」という一定の型になっている。この一定の型を活用する中で, 論理的思考力を養っていきたい。

「じどう車くらべ」では三つの事例を比べながら、それぞれの事例の「しごと」（目的）から「つくり①」（目的を達成するために必要なもの）「つくり②」（①を活用するための意図的なもの）として書き表されている。このように仕事とつくりを関わり合わせることで、「そのために」という接続詞を使って事柄の順序を考えながら内容の全体を捉えることを通して、仕事の目的を達成するために必要なつくりはどれなのかを考え、大切なものから選択していくことで、説明文をより分かりやすい文章にできるなど、論理的に物事を考える力を身につけることができると考える。

2・具体的な手立て

発問の中に「どちらが」「どれが」という言葉を入れることで児童が、様々な事柄から何が必要で、どの順番が分かりやすいかを説明しやすくしていく。

思考のツールとしての板書計画をしていく。言葉と言葉の関わりや、対比、順番などを計画的に取り入れ、児童の発言や思考の流れを表していけるように工夫する。

3 単元の目標

- 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思考・判断・表現力等）
- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知識・理解）
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思考・判断・表現力等）

4 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ・「読むこと」において文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	・進んで文章を読み説明における順序の重要性を知ることによって、自分が説明しようとするときにいかしたいことを見つけようとしている。

5 指導と評価の計画

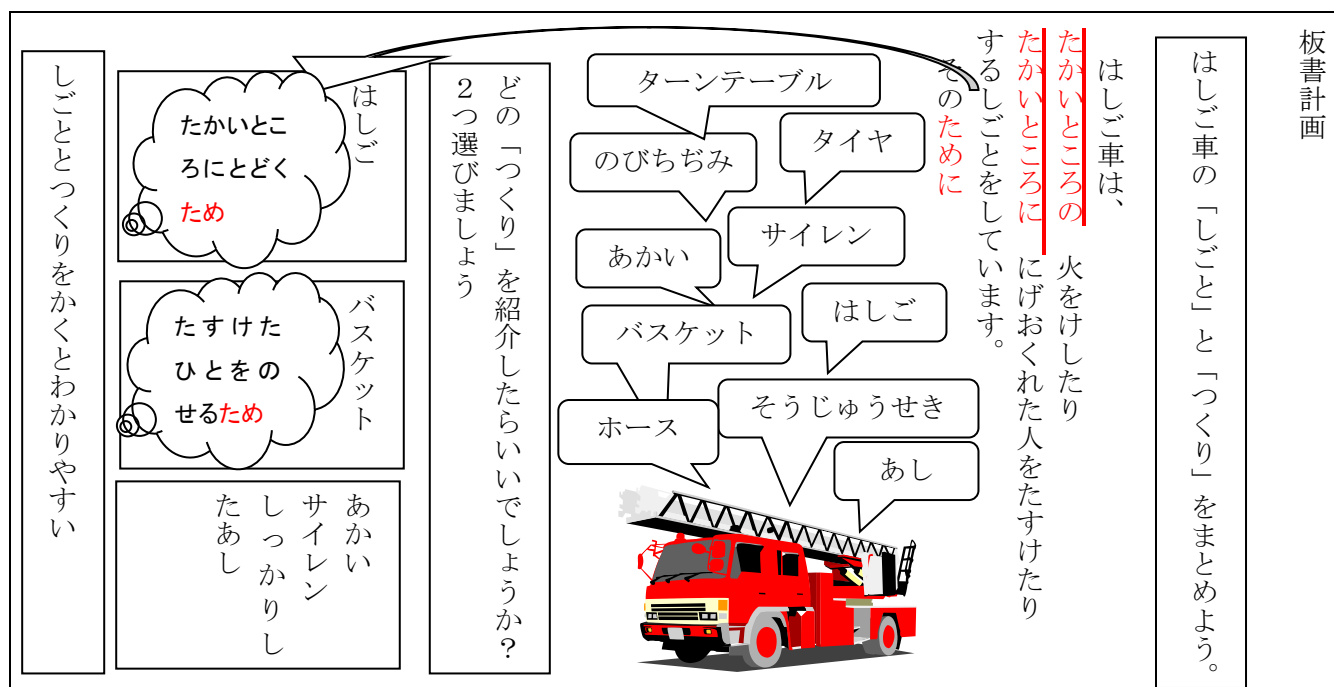
時	学習内容と学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1	自動車には、それぞれの「しごと」と「つくり」があることに気づき、学習の見通しをもつ。	・自動車には、それぞれ「しごと」や「つくりがあることに気づいている。[発言・記述]		・自動車の「しごと」と「つくり」に興味を持ち、進んで文章を読もうとしている。[観察]
2	問いの文や出てきた自動車を確認することを通して、文章内容の大体を捉えることができる。	・問いの文や出てきた自動車を確認することを通して、文章の内容のたいを捉えている。[発言・記述]		

3・4 ・5	説明を読み、バスと乗用車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。	・「しごと」に応じた「つくり」が説明されていることに気づいている。[発言]	・説明を読み、自動車ごとの「しごと」と「つくり」を捉えている。[発言・記述]	
4	説明を読み、トラックの「しごと」と「つくり」を捉えることができる。	・「しごと」に応じた「つくり」が説明されていることに気づいている。[発言]	・説明を読み、自動車ごとの「しごと」と「つくり」を捉えている。[発言・記述]	
5	説明を読み、クレーン車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。	・「しごと」に応じた「つくり」が説明されていることに気づいている。[発言]	・説明を読み、自動車ごとの「しごと」と「つくり」を捉えている。[発言・記述]	
6	事例の順序について考える活動を通して、構成の意図を捉えることができる。		・事例の順序について考える活動を通して、構成の意図を捉えている。[発言・記述]	
7 (本時)	はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を捉えることができる。		・はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を捉えている。[発言・記述]	・説明における順序の重要性を知り、自分が説明するときに生かそうとしている。[発言・記述]

6 本時の学習（第7/7時）

指導者【 三枝 陽 】		
教科・単元名 : 国語 じどう車くらべ		日時・ 11月28日(月) 3校時(10:00~10:45)
<p>本時の目標【はしご車の絵からその「しごと」と「つくり」を捉えることができるようにする。】</p> <p>【説明における順序の重要性を知り、自分が説明するときにかさねとすることができる。】</p>		
授 業 の 展 開		
過程(分)	○学習内容と学習活動および児童の反応	●評価と配慮事項
導入	<p>1 前時までの内容を振り返る。 クレーン車の「しごと」と「つくり」について確認する。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>はしご車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」「つくり」「つくり」の順に構成されていることを確認する。 ・本時のめあてを提示し、めあてを確認する。
展開	<p>3 絵の中から気づいた「しごと」と「つくり」を見つける。</p> <p>「しごと」</p> <p>① 高いところの火を消す仕事</p> <p>② 高いところのにげおくれた人を助ける仕事</p> <p>「つくり」</p> <p>① はしごがある。</p> <p>② はしごが伸び縮みする。</p> <p>③ バスケットがある。</p> <p>④ ホース（放水銃）がある。</p> <p>⑤ 操作席がある。</p> <p>⑥ 車体が赤くなっている。</p> <p>⑦ しっかりした足（アウトリガー）がついている。</p> <p>⑧ タイヤが6つある。</p> <p>⑨ サイレンがある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どの「つくり」を紹介したらいいでしょうか？つくりを2つ選びましょう。</p> </div> <p>4 「しごと」と「つくり」が書かれているワークシートを配布し、どのつくりを紹介するか選び、ワークシートに順序が分かるように記入する。</p> <p>5 どうして、そのつくりを選んだのか、理由を考え、ワークシートに記入する。</p> <p>はしご車は、高いところの火を消したり逃げ遅れた人を助けた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事とつくりをしっかりと分けて板書し、関連するところは目立つように記述する。 ・多くのつくりについて気づかせるが、紹介する文章を考えるときには①③④⑦⑨の五つの選択肢を提示する。 ・自分たちが見つけた選択肢の中から、どれが仕事の目的を達成するために必要なものかを選択させ、どうして選んだのか簡単に理由を考えさせる。 (論理的な思考) ・理由をつけて、「つくり」の順序を考えることができる。 (ワークシートの記述)

	<p>りする仕事をしています。そのために、「つくり①」「つくり②」があります。</p> <p>6 発表する。 選んだ2つの「つくり」の発表と選んだ理由を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いところの火を消すために使うから。 ・人を乗せることができるから。 ・高いところの人を助けられるから。 ・火事のところにすばやく着けるから。 ・車体がかたむかないようにするから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>他の「つくり」は、どうして選ばなかったのですか？</p> </div> <p>7 2つの中にどうしても入らなかった「つくり」について、選ばなかった理由を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしごのほうがたいせつだから ・サイレンは、高いところの人を助けるのにあまり使わないから。 ・ホースのほうが、仕事と関係しているから。 ・人を助けることができるバスケットのほうが必要だから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくり」に何を選んでよいか分からない児童には「高いところの火を消すのにどれが役に立つか」を問いかけ、考えさせる。（個別の指導） ・選ばれなかったつくりについて選ばなかった理由を考えることで、自分たちの選択の理由について深める。（論理的な思考） ・説明するときに「しごと」と「つくり」の関係や順序が大切であることに気づく。（発言）
<p>まとめ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>紹介するときは、どんなふうに紹介するとよいですか？</p> </div> <p>8 まとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 紹介するときには、「しごと」と「つくり」をかくとわかりやすい。</p> </div>	



本時の評価

- ワークシートからその「しごと」と「つくり」を捉えている。
- 説明における順序の重要性を知り、自分が説明するときにかそうとしている。

7 研究会の様子

・「児童が主体的に学習に取り組むことのできる課題であったか。」と「教師の発問は児童の論理的思考力を高めるものであったか。」を研究会の柱として討議を行った。研究討議グループに分かれ、それぞれのはしらについて話し合いを行った中で成果と課題については以下の通りである。

「児童が主体的に学習に取り組むことのできる課題であったか。」

成果

- 前時までの学習の振り返りを行うことで、「しごと」と「つくり」について引き出し、本時のめあてに対する見通しを持たせることができた。
- 既習事項を活用して課題の設定ができていた。
- 児童が答えやすい発問が多く、そのため児童がとても積極的に発言することができていた。
- はしご車の模型を活用することで、児童の興味を引くことができたり、「つくり」を捉えやすくなったりでき、主体的に学習に取り組むことにつながっていた。
- ワークシートの工夫で、「つくり」を選択できるようにすることで児童が課題に取り組みやすく、また考えやすくなっていた。

課題

- はしご車の模型をもっと動かしたり伸び縮みさせたりするとイメージが深まり、「しごと」と「つくり」とのイメージがもっと深まって高いところとはしごが結びついたと考えられる。
- 消防車の先入観が拭えなかったので、はしご車の「しごと」と「つくり」の特徴につながりが見つけにくくなってしまった。
- 提示した文章を子供たちが理解しきれていない状況で「つくり」に子供の視点に移ってしまった。

「教師の発問は児童の論理的思考力を高めるものであったか。」

成果

- どれを紹介したいのかを2つに絞ることで、児童が選びやすく、理由を考えやすくなっていた。
- 「つくり」について考えるときなど、「しごと」を考えさせることでその後の「つくり」を選ぶ発問が児童にとってイメージしやすくなっていた。
- 「どうして選ばなかったのか。」という問い返しによって、より必要な「つくり」が分かったり、自分の思考を疑ってみる効果があったりし、考えが深まっているように見られた。

課題

- 子供と教師のやりとりが多かった。児童に問い返しをしてクラス全体で意見を交流する時間があってもよかった。
- 「しごと」と「つくり」という言葉を使ってまとめを書くように指導していたが、この2つの言葉は、子供たちから表出させたい言葉であった。
- 「～です。」と「～だと思えます。」といった文系を意識させていくとさらに論理的な思考が深まっていくのではないか。

講師の先生の話

この単元は、説明文の構成について考えるための初めての発見や読み方をする契機となる単元である。児童には「わかりやすく伝えるためにはどうしたらいいか。」という視点で、はしご車の「しごと」と「つくり」を捉えさせるようにする発問が必要となってくる。授業の中で何から思考するかでは「つくり」について発表させたり、選択させたりするところは、児童に考えさせることができた。また、選ばなかった理由を考えさせるという、意見を批判的に捉えることもより深く考えさせることができていた。説明文には筆者の意図があるので、相手意識を持たせることも必要で、「どんなふうにしようか」という視点も追加して考えさせることで、「つくり」の並び順の重要性についてもより深く理解することができる。そういった視点を持たせるためにも映像などの視覚的な情報もあった方が理解しやすい。

また、本時は単元と単元をつなげる大事な学習活動である。単元全体を見て、児童に学習の見通しを持たせることが大切になる。この単元の場合は、説明文の構成を理解し、次の単元で、自分で説明文を書くことになっている。このような単元の場合はより大きな見通しを持たせ、児童に目的意識を持たせることも大切になってくる。よって、筆者の意図を理解し、それを活用して分かりやすく伝えることを児童が学習の見通しとして持つことで、論理的に思考する理由ができ、進んで伝えようとする主体的に学習する態度につながってくる。